

令和7年12月吉日

保護者の皆様

吹田市立西山田小学校

校長 波田 明代

令和7年度 全国学力・学習状況調査の分析について

今年度も、6年生を対象として「令和7年度全国学力・学習状況調査」を実施し、9月中旬に、個人ごとの結果をお返ししました。また吹田市でも、今回実施した調査結果の概要を吹田市のホームページを通じて公表しております。

この調査は、小学校の最終学年のみを対象とした調査です。今年度は、国語・算数・理科の3教科で実施されました。測定されたものは学力の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。そのことをまず踏まえつつ、調査によって得られた課題を明らかにし、その改善に全力を注ぐことが、調査本来のねらいであると考えております。

対象となった6年生には、よりきめ細やかな指導ができるよう取り組みを進めてまいりましたが、学校全体として課題に応じた学力向上につながる指導法の工夫改善を今後とも図ってまいります。各ご家庭におかれましても、以下の分析結果をもとに、今後の家庭学習の指針として、参考にさせていただきますようお願いいたします。

1. 教科に関する調査結果

●国語 ⇒ 全国の平均正答率を、やや上回っている。

☆各領域における成果と課題

話すこと・聞くこと

- ・目的や意図に応じて、日常生活の中から話題を決め、伝え合う内容を検討することについては、全国値を上回っている。
- ・自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉えることについては、全国値をやや下回っている。

書くこと

- ・書く内容の中心を明確にし、文章の構成を考えることについては、全国値をやや上回っている。
- ・目的や意図に応じて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することについては、全国値をやや上回っている。

読むこと

- ・目的に応じて、必要な情報を見つけることについては、全国値をやや下回っている。
- ・事実と感想・意見などとの関係を、叙述をもとに押さえ、要旨を把握することについては全国値を上回っている。

伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項

- ・学年別漢字配当表に記されている漢字を正しく使うことについては、全国値をやや下回っている。

《国語科における成果と今後の指導の改善点について》

目的や意図に応じて、日常生活の中から話題を決め、伝え合う内容を検討することや要旨を把握することについては、全国値を上回っている。一方で、話の内容を捉える力や必要な情報を見つける力については課題がある。

授業では、理由や根拠を明確にして自分の考えをもち、それを文章で表現する活動や、段落ごとに内容の中心となる語や文を読み取る活動を積極的に取り入れていく。

国語科の学習をその時間・その単元・その教科の中だけのものにせず、次の学習や他教科の学習、さらには、日常生活の問題を解決するために、国語科での学びを活用することができるよう、教科横断的に学習を進めていく。

●算数 ⇒ 全国の平均正答率を、やや上回っている。

☆各領域における成果と課題

数と計算

- ・小数の加法について、数の相対的な大きさを用いて、共通する単位をとらえることについては、全国値をやや下回っている。
- ・分数の加法について、共通する単位分数を見だし、加数と非加数が、共通する単位分数の幾つ分かを、数や言葉を用いて記述することについては、全国値をやや下回っている。

図形

- ・平行四辺形の性質を基に、コンパスを用いて平行四辺形を作図することについては、全国値を上回っている。
- ・台形の意味や性質を理解することについては、全国値をやや下回っている。

変化と関係

- ・伴って変わる二つの数量の関係に着目し、必要な数量を見いだすことについては、全国値を上回っている。
- ・「10%増量」の意味を解釈し、「増量後の量」が「増量前の量」の何倍になっているかを表すことについては、全国値を上回っている。

データの活用

- ・簡単な二次元の表から、条件に合った項目を選ぶことについては、全国値を上回っている。
- ・目的に応じて適切なグラフを選択して出荷量の増減を判断し、その理由を言葉や数を用いて記述することについては、全国値を上回っている。

《算数科における成果と今後の指導の改善点について》

図形の作図問題や伴って変わる二つの数量の関係に着目する計算問題については、全国値を上回っている。また、グラフや表などの資料の読み取りについても、全国値を上回っている。一方で、小数や分数の計算方法を説明する問題など、数と計算の理解については課題がある。また、無解答の割合が全国値を上回っており、文章問題において問われている内容を読み取る力や最後まで取り組む力についても課題がみられる。

授業では、基礎基本の力を育成すると同時に、学習内容を説明しあう活動を取り入れていく。また、求められている内容を的確に読み取ることができるよう、問題文とじっくり向き合い、問いに正対する答えを導き出すという学習を習慣化させる。算数科のみならず、他教科においてもこうした学習活動を取り入れていく。

●理科 ⇒ 全国値をやや上回っている。

☆各領域における成果と課題

エネルギー

- ・身の回りの金属について電気を通すもの、磁石に引き付けられるものがあることの知識が身につけているかについては全国値をやや下回っている。
- ・乾電池のつなぎ方については、全国値を上回っている。

粒子

- ・水の温まり方について、観察、実験方法が適切であったかを検討し表現することについては、全国値を下回っている。
- ・水の結露について、概念的に理解しているかについては、全国値を上回っている。

生命

- ・顕微鏡を操作し適切な像にするための技能については、全国値をやや上回っている。
- ・発芽するために必要な条件について、解決の方法を発想し、表現することについては、全国値を上回っている。

地球

- ・赤玉土の粒の大きさの違いによる水のしみこみ方の違いについて、結果をもとに結論を導いた理由を表現することについては、全国値を上回っている。

《理科における成果と今後の指導の改善点において》

問題解決を通して習得した知識を活用して、学習の成果を日常生活との関わりの中で捉え直す場面を設定し、理解を深める学習活動に取り組む。

結果などから結論を導き出すために必要な数量、変化の大きさなどの特徴を見つけ、自分の考えをもち、それらを話し合う場面を設定する。

観察、実験の結果の具体的な数値や、それを分析した内容などを根拠として表現する。

問題を的確に把握し、何を記録する必要があるかについて検討する活動を行う。その際に、結果の見通しについて話し合い、必要な記録内容を明らかにする学習活動を行う。さらに、それぞれの気づきを明確にし、主に差異点や共通点を基に、問題を見いだす場面を設定する。

2. 生活習慣や学習環境に関する調査結果

(1) 自分自身のことについて

- ・「自分には、よいところがあると思いますか。」「先生は、あなたのよいところを認めてくれると思いますか。」という設問に対して肯定的な回答は、全国値を上回っている。
- ・「将来の夢や目標を持っていますか。」という設問に対して肯定的な回答は、全国値をやや上回っている。
- ・「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか。」の設問に対して肯定的な回答は、全国値を上回っている。
- ・「人の役に立つ人間になりたいと思いますか。」や「友達関係に満足していますか。」の詰問に対して肯定的な回答は、全国値をやや下回っている。

(2) 家庭生活について

- ・「学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか。」という設問に対して「2時間以上」の回答は、全国値を上回っている。また、「土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか。」の設問に対して「2時間以上」の回答も、全国値を上回っている。

(3) 学校生活・学習について

- ・「学校に行くのは楽しいと思いますか。」という設問に対して肯定的な回答は、全国値を大きく上回っている。
- ・「自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか。」という設問に対する肯定的な回答は、全国値を上回っている。
- ・「国語の勉強は好きですか。」という設問に対する肯定的な回答は6割程度であり、全国値の5割程度と比べると上回っている。また、「国語の授業の内容はよく分かりますか。」という設問に対する肯定的な回答は9割程度であり、全国値の8割をやや上回っている。
- ・「先生は、あなたの学習のうまくできていないところはどこかを伝え、どうしたらうまくできるようになるかを教えてくださいませんか。」という詰問に対する肯定的な回答は8割であり、全国値の7割をやや上回っている。
- ・「算数の勉強は好きですか。」という設問に対する肯定的な回答は6割程度であり、全国値とほぼ同じである。また、「算数の授業の内容はよく分かりますか。」という設問に対する肯定的な回答は7割程度であり、全国値の8割程度をやや下回っている。
- ・「理科の勉強は好きですか。」という設問に対する肯定的な回答は9割程度であり、全国値の8割程度と比べるとやや上回っている。

(4) ICT機器の活用について

- ・「学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、PC・タブレットなどのICT機器を、勉強のために使っていますか。（遊びなどの目的に使う時間は除く）」という設問に対して「3時間以上」「全く使っていない」の回答は、全国値を下回っている。

3. 今後の取り組み

本市では、「総合的人間力の育成」を目指して、今後、予測困難な社会の変化に主体的に関わり、自らの可能性を發揮し、よりよい社会と幸福な人生の創り手となる力、知・徳・体にわたる「生きる力」を育むために、各教科において「何のために学ぶのか」という学ぶ意義について、学校と児童が共有しながら、授業及び指導の研究と実践に日々努めています。

本校におきましても、これらの視点を大切にし、学力向上の取り組みを推進していきます。

学習面においては、各教科で基礎学力の定着をめざすとともに、子どもたちが主体的に学習でき、友達と学び合う良さを実感できるよう授業改善を進めていきます。また、児童が身に付けるべき資質・能力を育むための効果的なICTの活用の在り方を考え、児童がタブレット端末等の使い方についても考えられるよう、デジタル・シティズンシップ教育にも取り組んでまいります。

生活面においては、小中連携を図り、9年間を見通した規範意識の醸成に努めます。様々な教育活動を通して、それぞれの良さが發揮できるような役割や場を設けることにより、責任感を育み、自己肯定感・自己有用感をさらに高めていきます。

今後とも、個々の児童に応じた学力の向上と基本的な生活習慣の確立をめざし、ご家庭と連携しながら取り組みを進めてまいります。ご理解、ご協力のほどよろしくお願いいたします。